

平成28年度 後期 FD推進委員会としての授業公開推奨科目一覧

科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜時	参観が望ましい日程	受講者数	教室	科目目的	到達目標	授業方法	特記事項(あれば)	授業動画公開予定
1 日本の文化Ⅱ	講義	大・短 共通教育	海老原 由貴	水3		19名	S-33	This course will aim important concepts of Japanese culture. Students will be asked to apply these concepts to current Japanese life and think critically about Japanese belief systems, ways of interacting and creative expressions. We will discuss what it means to be an international student in Japan or being Japanese in the context of daily life in Kansai.	As a result of taking this course, the student will be able to: ・increase awareness of Japanese society and how it functions as well as the culture behind its systems. ・make connections from given reading materials to cultural concepts or peoples' real-life experiences. ・express and share your thoughts and opinions with your peers. ・prepare and deliver organized presentations in small groups and to whole class.	The professor will serve as a facilitator to help bridge discussions between International Students and local Japanese students. Students are expected to attend every class, listen attentively, take notes, respect both the professor and other students, and participate in activities such as; ・Pair work /Group discussion (Reading Circle) ・Individual and group presentation ・In-class writing ・Peer evaluation	全て英語で行う授業のため、英語で授業に参加し、発言することに興味がある方向けです。学生にも日本語で話しかけるのはNGですので、ご注意ください。	あり
2 日本語ライティングⅡ	演習	短日1B	小泉 京美	水2		14名	C-603	日本語ライティングⅠを踏まえてさらに、レポート・卒業論文・就職試験等において必要となる文章作成能力を身に付ける。また本科目は、中学校教科国語を教授するに足る基礎的知識及び技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	様々な状況に最もふさわしい文章を作成できる技術と能力を身に付けている。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容及び教材に関連づけて主体的に探求する。	参考書『文章検公式テキスト2級』に基づいた、文章作成能力のためのプリントを解説しながら演習問題を解いてゆく。教科書『部首と意味で覚えるランクアップ漢字3800』に準じて漢字についての知識を習得し、書き取り問題に取り組む。なお、文章作成ではクラスごとのテーマに沿った文章を作成する。		
3 国際ビジネスコミュニケーション	講義	大英4S	宇佐美 彰規	金2		20名	C-702	This course aims to increase the awareness and knowledge of students about international business communication, by exploring how business is conducted, and what skills are required to participate in the international business arena.	The goal for the students in this course is for the students to be well-equipped with high business communication skills in English and profound understanding of international business, with which they can participate actively in the global business community.	Various business communication issues will be discussed in class, and students will be required to analyze the case studies and identify possible solutions.		
4 体育Ⅱ(実技)	実験 実習等	大教1AE	向出 章子	木3	11月17日	42名	G1-25	体育・スポーツについての体験的活動と講義を通して、教育者・保育者に求められる健康と安全についての知識と技能を身につける。	(1)陸上運動とリズムダンスの理論的背景について理解する。 (2)陸上運動とリズムダンスを安全に実践することができる。	実技中心(リズムダンス)		あり
5 ソーシャルワーク概論B	講義	大心1AB	堀 善昭	火2		100名	L1-403	1. 社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む)と意義について理解する。 2. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 3. 相談援助の概念と範囲について理解する。 4. 相談援助の理念について理解する。 5. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 6. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 7. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	1. 社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義及び専門性について説明できる。 2. 相談援助の理念である利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーションについて説明できる。 3. 相談援助に係る専門職の概念と範囲について説明できる。 4. 専門職倫理の概念と倫理的ジレンマについて説明できる。 5. ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な援助の意義と内容について説明できる。 6. ジェネラリストの視点に基づく多職種連携(チームアプローチ)の意義と内容について説明できる。	講義型やグループワークの授業形式をとる。また授業中に質問等の時間もあり、授業理解度の確認に役立てること。		あり

平成28年度 後期 FD推進委員会としての授業公開推奨科目一覧

	科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜時	参観が望ましい日程	受講者数	教室	科目目的	到達目標	授業方法	特記事項(あれば)	授業動画公開予定
6	権利擁護と成年後見制度	講義	大心1ABCD	堀 善昭	木1		79名	L2-31	社会福祉学の価値の一つである人権の尊重を中心に、法の基本原理(成年後見制度含む)を理解する。	相談援助職として法(日本国憲法の基本原理、民法(成年後見制度含む)・行政法)を活用する知識を得るとともに、専門職としての素養を身につける。	学生自ら主体的な学びを促し、共に学びあう双方向授業を行う。調べ学習では教科書等を使用し、不明な個所は図書館等に出向き各自調べる。授業時は補足として配布資料を用いることもある。また、多職種連携場面を想定した授業も行う。具体的には、弁護士をゲストスピーカーとして招聘し、社会福祉士に求められる役割を、具体的な連携場面から講義する。		あり
7	スポーツ心理学Ⅱ	講義	新健4ABCD	田中 美吏	木2		24名	MM-502	スポーツ心理学研究の動向を探るとともに、スポーツ心理学で扱うテーマや問題について理解を深める。また、スポーツ活動の実践において心理的・社会的・身体的ストレス負荷がどの様に関連するかを学び、現場の指導に役立つ心理的コンディショニングに関する知識を修得する。	適切な指導方法、コミュニケーションの充実などにより、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促すとともに、生徒の心理についての科学的知見、言葉の効果と影響を十分に理解し、指導者の立場から現場での問題解決能力を身につけることを目標とする。	講義型授業を中心とするが、適時、教員と受講生による双方向型授業やアクティブラーニングを採用する。		あり
8	日本建築史	講義	大環2ABC	桐浴 邦夫	火2		119名	S-59	日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。	日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。	毎回プリントを用意し、それによって講義を行う。また写真などの映像をプロジェクターで映し、より具体的な形の理解を深め、感性を養う。		あり
9	生化学Ⅰ	講義	大食1B	土生 敏行	金4		42名	E-202	本科目は管理栄養士課程に必要な基礎専門科目の人体の構造と機能の分野に分類される。本科目は栄養関連科目等の専門科目を理解するための基本科目であり、既修得の基礎生物化学および本科目によって栄養素の代謝を体系的に理解し、代謝に関する知識を体系化することを目的とする。	2年次専門科目の学習に必要な生化学の基礎知識の修得と理解度の向上を到達目標とする。	教科書を基本に板書により講義を進める。適宜参考プリントやパワーポイントを用いて理解を深めながら進める。授業内容から、小テストを行い理解度の把握に努める。		
10	アルゴリズム論	講義	大情2ABCD	中村 勝則	火2・5		火2:90名 火5:72名	MM-812	アルゴリズム(算法)は情報処理のための最も基本的な概念である。情報処理を深く理解し、プログラミングやスクリプティングを行うためにはアルゴリズムの考え方を身につけることが必須である。この科目では、必要に応じて各種のプログラミング言語を学ぶための基礎力を養い、高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識及び技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本講義で学ぶ基本的なアルゴリズムを理解して、それらを実際のプログラミングに応用できるようにすることを目指す。日常の情報整理や判断を行う際にアルゴリズムの考え方を応用できるようになることも一つの重要な目標である。なお、教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容及び教材に関連づけて主体的に探求する。	1. 各種のアルゴリズムを始めとする基本的な概念の解説を行う。(講義) 2. Java言語を用いてアルゴリズムを実装する。基本的なものは受講者に作らせる。(演習) 高度な応用例に関しては、実装例を紹介して動作の確認と評価を行う。 3. μ Camやコミュニケーションシートを用いて、可能な限り授業の双方向性(教員-学生間)を実現する。		あり

平成28年度 後期 FD推進委員会としての授業公開推奨科目一覧

	科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜時	参観が望ましい日程	受講者数	教室	科目目的	到達目標	授業方法	特記事項(あれば)	授業動画公開予定
11	建築設計演習Ⅳ	演習	大築3	柳沢 和彦	火木金 3・4	11/19(土) 11/22(火) 1/12(木) 1/13(金)	46名	AS-120 講評室	音響、舞台芸術や町並み、地域の商業活動等の諸条件も考慮しつつ、集団のためのより複雑な建築・都市空間を設計する手法を学ぶことを目的とする。そのため、音楽や舞台芸術のための建築空間、集合行動、商業のための建築・都市空間を設計する演習を行う。	集団のためのより大規模で複雑な建築、都市の設計への理解を通して、「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力をより向上させる。 本科目が対応する建築学科・大学院建築学専攻修士課程(6年)、および建築学科(4年)の学習・教育到達目標(◎は特に対応する到達目標、○は対応する到達目標) ◎D-1(6年)「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的、実践的に実現する能力を修得する。(4年)「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培う。 ○A-1, A-2, A-3, A-4, B-1, B-2, C, D-2	PBL(Problem-based learning: 問題解決型学習)。教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評を総合し、学生各自でそれらの意見・評価を解釈し選択して、具体的な作品へまとめあげる。	公開日は講評会のため、AS-120講評室で授業を実施。	あり
12	教育伴奏法	演習	大応2	多田 秀子	水1		22名	M-21-7	中学、高等学校の授業及び音楽療法の現場で取り上げられるような教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるような伴奏及び弾き語りをする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識及び技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りをすることを目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容及び教材に関連づけて主体的に探求する。	予め与えられた課題の伴奏を練習して授業で発表し、曲の内容にふさわしい伴奏表現方法を探究していく。 初見視奏の力を向上させる練習も行う。		あり
13	生活環境と健康	講義	新薬4AB	山下 沢	金3	12/16以外	112名	P3-11	生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象や人為的活動を理解し、環境汚染物質の成因、人体への影響、汚染防止などに関する基本的な知識を習得することを目的とする。	1) 環境汚染物質をはじめとした種々の要因による地球環境への影響について、生態系の構成も含め、説明するに必要な基本的知識を身に付けている。 2) 我々の生活に関わる水、大気および室内環境について、汚染や浄化法、それに関わる物質と人体影響に関する基本的知識を身に付けている。 3) 環境保全に関して、廃棄物に関する現状と問題点、公害について学び、環境保全に関わる法的規制について基本的事項を修得している。	講義は、基本的にパワーポイントを使って行い、適時、資料を配付する。また、過去の国家試験問題や演習問題を解くことで、CBTや国家試験を意識した知識の確認を行う。	12/16は休講予定	

平成28年度 後期 FD推進委員会としての授業公開推奨科目一覧

	科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜時	参観が望ましい日程	受講者数	教室	科目目的	到達目標	授業方法	特記事項(あれば)	授業動画公開予定
14	小児看護学Ⅱ	演習	大護2AB	藤田 優一	水2		86名	N-101	この科目は、子どもへの日常生活援助の技術およびフィジカルアセスメントの技術を学び、入院する子どもの看護過程の展開に必要な能力を習得することを目的としている。	1. ファイジカルアセスメントの方法について理解し、モデルを対象に実施ができるようになる。 2. 子どもの日常生活援助について、説明ができるようになる。 3. 離乳食の演習を通して、離乳食の発達ごとの特徴について説明ができるようになる。 4. 子どもの遊びや絵本の読み聞かせについて理解し、実施ができるようになる。 5. 健康障害を抱える子どもと家族の事例について、情報をもとにアセスメントし、看護問題の明確化ができるようになる。 6. 健康障害を抱える子どもと家族の事例について、看護計画の立案ができるようになる。 7. グループワークで、積極的な態度を示すことができる。 8. グループワークで、自身の意見およびグループの意見を述べることができる。	前半では講義を行った後に、そのテーマに関する演習を行う。後半では健康障害を抱える子どもへの看護についてのグループワークと発表を行う。		あり
15	解剖生理学Ⅱ	講義	大護1AB	山添 光芳	金2	12/2以外	81名	N-101	人間の形態と機能、構造を系統的に学ぶと共に、形態と機能を関連付けて学習し、看護実践の方法や治療の必要性を理解するための基礎知識を修得することを目的としている。	1. 人間の形態と機能、構造について系統的に学び、その基礎的な特徴や働きを説明することができる。 2. 看護や医学的な処置を行う上での注意点を結びつけて、人間の形態や機能、構造を理解する必要性を考察することができる。	講義形式(各章ごとに小テストを行い、理解度を評価します。)	12/2は休講予定	あり